

【高等学校用】

令和3年度学校評価計画

学校名	佐賀県立伊万里実業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度はコロナ禍の中、学校行事等も思うようにはできなかったが、なるべく例年どおりの教育活動となるように綿密な計画等を立てて行うことで、教職員の一致団結した取り組みができた。 ・これまで2年間で校舎制をとる高校としてのシステム等は概ね整えることができたが、来年度、伊万里実業高校の完成年度を迎えるにあたり、更に詳細を検討し、魅力ある学校づくりに努めていかななくてはならない。
2 学校教育目標	心身ともに健康でたくましく、至誠と礼節を重んじ専門的知識・技術を生かし社会に貢献する人材を育成する。
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> (1) 「心遣い」の発言や行動ができる生徒を育成する。 (2) 学習意欲を高め、確かな学力を育成することで進路実現を目指す。 (3) 地域の期待に応える学校づくりを推進する。 (4) 「校舎制」の強みを生かし、地域社会に貢献できる有意な人材を育成する。

4 重点取組内容・成果指標

(1) 共通評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	○年間計画に基づき基礎学力の向上を図る。	○国語テスト・英語テスト及び就職ドリルの各クラスの平均点が「15点～18点(20点満点)以上」をめざす。 ○進路マップのGTZでレベルDの生徒を「上のレベル」になるよう取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な事前学習の時間を確保し、各教科でも授業時間に取り扱うなど備えをさせる。不合格者への追指導も徹底し、基礎学力の定着をめざす。 ・小テストの年間成績優秀者は年度末に学校長から表彰を行う。 ・昨年度の成績を踏まえ、事前テキストを各教科の授業で取り扱い、理解の進んでいない生徒の実態把握と学力定着をめざす。
	○読書活動の推進	○生徒図書委員会を年間「3回」実施する。 ○生徒一人あたりの年間貸出数「4冊」以上をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の実施。 ・図書館便りの発行、新刊の案内。 ・読書を推進するための図書委員会による話し合い及び活動。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○講話を受けて「ためになった」と答える生徒が「80%以上」をめざす。 ○特別指導件数「0(ゼロ)」をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思いやり、相手の立場に立って考えた言動ができる生徒を育成する。 ・いじめや暴力を許さない姿勢を育成する。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ問題に対し未然防止、早期発見早期対応、再発防止への組織的な対応ができていると回答した教員が「80%以上」になるよう取り組む。 ○いじめを許さない雰囲気づくりと意識の向上を図るため、アンケートを毎学期に1回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・LHRで生徒会を中心として、いじめ防止標語作成やいじめのない学校宣言を行う。 ・スクールカウンセラーと連携して生徒の状況把握を行う。 ・毎月いじめアンケートの実施。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎講話を受けて「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答する生徒が「70%以上」をめざす。 ○地域ボランティア活動を年間「2回」実施する。 ○県内(地元へ)の就職率の向上と地域を支える人材の育成。	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に「佐賀語り」を活用した学習を実施する。1年生は毎週朝読書で取扱い、3年生には「佐賀を誇りに思う事業」を企画する。 ・DVD「ものスゴSAGA」を活用し、県内企業に対する理解度を深める。 ・インターンシップ等の在り方の検討をし、オンラインで佐賀の企業紹介を積極的に行う。 ・中学生やその保護者への広報・情報発信を推進する。 ・求人票情報の3年学年との共有を速やかに行う。 ・応募前職場見学の参加を促進する。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒「90%以上」をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ・食育便りの毎学期発行とアンケート実施。 ・お弁当の日の結果報告およびHP掲載。 ・保健便りの毎月発行。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	○学校管理下での怪我等による生徒一人あたりの災害給付申請件数を「5%以下」とする。 ○生徒の交通事故を「0(ゼロ)」にする。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便りによる啓発活動。 ・「交通安全教室」等を実施し、交通マナーを遵守する心を育成する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日の設定(週1回)。 ・学校閉庁日の設定(4日間)。 ・部活動休業日の設定日の徹底と運用の遵守。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			
評価項目	重点取組		具体的取組
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○ICT利活用	○ICT機器を活用した家庭学習の支援	○家庭学習のための課題配布を各学期3回以上行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なオンライン学習支援の実施。 ・週末にメールで課題の配布を行い、週初めに回収するなど、可能な手立てを考える。
○魅力ある学科づくりと地域とのつながりの推進	【商業キャンパス】 ○商業の考え方を理解させるとともに、実践的・体験的な学習活動を通して、社会で通用するスキルや知識を身につけさせる。	○各種検定試験の合格率80%以上をめざす。検定試験の学習の中で論理的かつ実践的な知識を身につけさせる。 ○外部講師による講演等を設け、実践的なスキルや知識を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・検定試験の指導については、授業だけでなく長期休業中や直前対策の特課を設定する。 ・各専門科目の中で、経営者や専門家による授業を実施する。また、このような内容を生かして関係するコンテストや発表会に積極的に参加するよう促す。
	【農林キャンパス】 ○農林業の実習や商品開発・販売実習の充実 ○地域と連携した活動・交流活動の推進	○学科の専門学習への興味関心度80%以上をめざす。 ○農業文化祭を充実させ生産物販売をとおして、6次産業学習を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した体験活動や貢献活動・交流活動等の推進。 ・HP更新や学校だより等で情報発信に努め、開かれた学校づくりをめざす。
○校舎制	○各種委員会開催時における、「オンライン会議」の推進 ○学校行事・生徒会行事等の合同実施	○両キャンパス合同で開催する会議において、積極的に「オンライン」による開催を推進する。 ○キャンパス毎に実施していた学校行事を一つの学校の行事として開催する。 ○両キャンパスの生徒職員が一体感をもって、教育活動や指導支援に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・両OPのICT支援員が協力し、分掌および全職員が参加できる環境、支援体制を整える。長期休業を利用した会議の実施。 ・行事の精選と合同開催の有無について事前検討する。また、各行事の開催内容の計画を両キャンパス揃えた形で提示できるようにする。